

兼好忌

飄

々

広報委員

石田 健

吉田兼好は鎌倉時代末期から南北朝時代にかけての官人・遁世者・随筆家であり、現在、日本三大随筆の一つとされる『徒然草』の作者として有名である。誕生は1283年ごろ、死没は1352年前後の4月8日とされている。妻子はいない。

吉田兼好の本名は卜部兼好といい、卜部家は京都の吉田神社の社家であり、父親もこの神社の神職であった。兼好は後二条天皇に仕え、従五位下左兵衛佐にまで昇進するが、30歳前後で出家遁世する。その理由はさまざま推測されているが、定かではない。兼好が生きた時代は、鎌倉時代末期から南北朝時代への政治的激動期であり、後二条天皇の急死後、朝廷内の権力闘争に巻き込まれたのが誘因ではないかと思われる。

出家した後、仏道修行に励む傍ら、歌道に志して二条為世に師事し、その四天王の一人とされた。その後の南北朝時代には現在の大阪市阿倍野区にある正圓寺の近くに、生きてゆけるだけの所領を得て、清貧自適な暮らしを営んでいたといわれる。

徒然草の有名な書き出しの「つれづれなるままに、日くらし硯に向かひて、心にうつりゆくよしなしごとをそこはかとなく書き付ければ、あやしうこそ物狂ほしけれ」は、いまなお名文として多くの日本人の心に刻み込まれている。

徒然草は種々の思索的随想や見聞などの243段よりなり、名文の誉れが高く『枕草子』『方丈記』とともにわが国の三大随筆文学の一つとされる。

時代は下り、江戸時代になると、徒然草に書かれた教訓は、町人などの庶民にも親しみやすく、

江戸時代の文学や思想に多大な影響を及ぼした。現在では高校生の必読の古典となり、文学史上の位置が確定している。

随筆とは自分の見聞きした事などをありのままに書いた文章のことである。

難解な評論文で有名な小林秀雄は、兼好の「物が見えすぎる眼」を指摘している。徒然草の内容は、世の中は定まっていなからすばらしいという仏教的無常観であり、さまざまな人間の姿を兼好は描き、その結果、兼好の鋭い人間観察から生み出された人間的理解は、現在でも普遍的な価値を有している。兼好にとって古き良き時代とは、優雅な平安貴族の世界や安定していた鎌倉武士の世界だったようである。

このように、徒然草には仏教的無常観と古き良き時代への懐旧の情が漂っている。

無常の概念が広まったのは、末法思想と浄土信仰が関係している。末法思想とは、釈迦の入滅後にその教えが徐々に忘れられ、やがて廃れる時代が来るという考えであるが、日本では1052年が入末法の年にあたりと信じられていた。末法の世では災いが起こるといわれており、この思想が人々に厭世観や無常観をもたらしていた。そのため極楽への往生を祈り、阿弥陀如来に救いを求める浄土信仰が発展したのである。兼好が生きたのはまさに動乱の時代であった。貴族が保元の乱や平治の乱によって衰退、武家勢力が誕生し、平氏が政権に就くものの、源平争乱の末に源氏による鎌倉幕府が誕生する。さらに、朝廷が分裂し南北朝時代へと移り変わる中で世の中の価値観

は一変し、誰もが無常観を感じている時代であった。

質素な住まいで、必要最低限の物しか持たず、妻子も持たず暮らした兼好は、孤独でさびしい暮らしにも見えるが、晩年の兼好は、ただ安らかに

暮らすことだけを望んで、憂いのない生活を楽しみ、心豊かに暮らしていたようである。

何を捨て何を残すや兼好忌

日医FAXニュース

2020年(令和2年)4月3日 2863号

- 「医療危機的状況宣言」を発表
- 診療報酬上の取扱いを説明
- 「オーバーシュートの前に医療崩壊」

2020年(令和2年)4月7日 2864号

- 安倍総理と意見交換
- 都内の感染拡大を受け、要望書を提出
- 新型コロナ「緊急事態宣言」発令で決議
- 軽症者は「施設か自宅」へ転換準備を
- 厚労省、妊婦への新型コロナ対策を公表

2020年(令和2年)4月10日 2865号

- 臨時対応は「救急医療管理加算1」で
- 感染爆発防止へ「ぎりぎり間に合った」
- 初診のオンラインは「特例中の特例」
- 外国人向けの電話相談事業を支援
- 風評被害でメッセージ動画制作

2020年(令和2年)4月14日 2866号

- 新型コロナで時限措置、初診料214点
- 新型コロナ、抗体検査の速やかな普及を
- BCGワクチン効果「科学的実証ない」
- BCGワクチン、適応外使用が散見
- 感染者振り分け、調整など「決めるべき」

2020年(令和2年)4月17日 2867号

- 「COVID-19 JMAT」の派遣を開始
- 「配慮必要な人」の対応まとめる
- 医療計画の中間見直しで通知
- N95マスク再利用などで事務連絡

2020年(令和2年)4月21日 2868号

- エビデンスに基づく情報を臨床現場へ
- 救命救急、ICU・HUCの報酬倍増
- 医療現場支援へ「診療報酬を倍増する」
- コロナ特例対応への委員の意見を公開

【日本医師会からのお知らせ】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う業務体制の変更のため、当面の間、「日医FAXニュース」の発行を休止させていただきます。ご理解の程どうぞよろしくお願いいたします。